

ディプロマ・ポリシーの学修成果目標の検証

多摩大学 経営情報学部

1、DP 項目のアンケート調査と PROG

テーマは、どのような項目が、「DP 項目の身につけ具合」を高めるか、です。
その分析に、「DP 項目の身につけ具合」に関する学生アンケートを間接指標として活用しています。これらの学生アンケートと PROG スコア等とのクロス集計を行なっています。

DP 学修成果目標は次のとおりの 5 つです。

- DP①知識と理解 DP②思考と判断 DP③関心と意欲
DP④表現と技能 DP⑤高い志

2、経営情報学部「2020 年度卒業生アンケート」における DP 項目達成度(四肢択一)

(1)経営情報学部では、卒業生アンケートをオンラインで行いました。

(2)DP「学修成果目標」5 項目間では、0.7~0.8 の「強い相関」がありました。

(3)それぞれの「学修成果目標」に関し、相関係数分析を行うと、同じ様な項目が同じ様な相関係数で登場します。

- ①3 年次コンピテンシー総合 相関係数 0.20~0.33**
②1 年次コンピテンシー総合 相関係数 0.17~0.29**
③1 年春英語テスト4 月 相関係数 0.12~0.19*
④就職内定社数 相関係数 0.11~0.14*

	Ⅱ-1 知識と理解	Ⅱ-2 思考と判断	Ⅱ-3 関心と意欲	Ⅱ-4 表現と技能	Ⅱ-5 高い志
3年次コンピ総合	0.224 **	0.201 **	0.301 **	0.322 **	0.284 **
1年次コンピ総合	0.175 **	0.191 **	0.286 **	0.265 **	0.251 **
1年春英語テスト4月	0.122 *	0.146 *	0.181 **	—	0.143 *
内定社数	—	0.130 *	0.111 *	0.139 *	0.130 *
1年次修得単位数	▲0.109 *	—	—	0.108 *	—
出身校評定	—	0.118 *	—	—	—
1年春修得単位数	—	—	—	0.119 *	—
1年次GPA	—	—	—	0.112 *	—

(4) 相関が強めの関連項目は、「コンピテンシー」に加え、「1年次英語クラス分けテスト」、「内定社数」でした。

(5) 「DP④表現と技能」では、1年次での「単位数」「GPA」がベータ=0.11程度で登場しました。「表現と技能」における1年次の過ごし方の大切さがわかりました。

(6) 「DP⑤高い志」の回帰分析

①1年次「リテラシー」「コンピテンシー」ともに正の相関にありました。

・1年次リテラシー・コンピテンシーが高いと、「志」を達成しやすい。

・1年次リテラシー・コンピテンシーが低いと、「志」を達成しづらい。

②本分析では、リテラシーよりもコンピテンシーの方が大きな β でDP項目に関連することがわかりました。

3、経営情報学部 2020年度秋学期の「学修状況調査」

経営情報学部では、2020年度秋学期の「学修状況調査」上で、学生の学修成果である「DP項目の達成度」を把握するためのアンケート調査を実施しました。最大1,170人を分析しました。

(1) DP項目どうしの相関係数は0.7~0.8程度あり、「強い相関」となっています。

(2) コンピテンシースコアとの正相関が数多く登場しました。

(3) どのDP項目も、同じ様なデータ項目との関連が強く、これらの項目が「学生の成長」への「ボタン」「スイッチ」となります。

①正の相関

・就職キャリア支援・学修支援等の学生支援への満足度

・コンピテンシー諸項目

・1年春修得単位数をはじめとする修得単位数

・自主的勉強時間・予復習時間・読書時間

・学内友人数

・1年次英語クラス分けテスト(4月)

②負の相関

・男女差(女子の方が達成に関する自己評価が低い)

(4) (DP項目ではありませんが)卒業時における「ゼミ」の満足度・不満度に、「1年次英語テスト」「3年次リテラシー」「3年次コンピテンシー」の3つが関連することがわかりました。

①「ゼミ満足」の表現:1年次英語テスト、3年次リテラシー・コンピテンシーが高めであると、ゼミに満足する傾向がある。

②「ゼミ不満」の表現：1年次英語テスト、3年次リテラシー・コンピテンシーが低めであると、ゼミに不満である傾向がある。

以上